

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 広瀬秀憲

山名	釈迦岳・堂満岳	山行名	夏山トレーニング
ルート	イン谷口→ワングル道→釈迦岳→北比良峠→金糞峠→堂満岳→イン谷口 2014		
山行日	2014年7月6日	天候	曇りのち雨
参加者	リーダー：広瀬秀憲 サブリーダー：岡本綾子 男性：秋月、上田、梅澤、津田、坪田、峯岡、村上、若林 女性：秋山、伊藤、上杉、上田、江平、河野、倉光、玉井 合計： 18 名		

ルート概略図	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
	イン谷口	集			着	
		発	8:20		発	
	釈迦岳	着	11:00		着	
		発	11:30		発	
	金糞峠	着	12:10		着	
		発	12:15		発	
	堂満岳	着	13:55		着	
		発	14:10		発	
	イン谷口	着	16:20		着	
		発			発	

山行報告

不手際で皆様にご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

イン谷口到着時間が予定より遅れ、登山口の見落としなどで、出発時間が予定より 20 分遅れる。大津ワングル道は、雄松山荘道出合から急登の岩場、木の根っこの張り出しなどが続き、下りには使いたくない道である。岡本 SL、津田班長のリードで、スピードを抑え体力温存に努めたことが功を奏し、予定通り 11:00 に釈迦岳頂上に着く。ここで食事休憩。食事中北小松組が到着。11:30 分に雨が降り出したため合羽を着用して出発。しかし食事を終えた北小松組がすぐ追い抜いていく。金糞峠までの尾根歩きは、本来琵琶湖の眺望が楽しめるはずだが、雨のためひたすら足を進めるのみ。金糞峠着予定通り。一休憩して堂満岳へ。頂上には 13:55 に着。集合写真を撮る。皆ここまでは順当な時間消化のため、雨でありながらも元気である。ここからは急激な下り、雨のため道が滑りやすく、一步一步慎重に足を踏ん張りながら下りていく。当然足に負担が大きくなる。足に不調を訴える者がでる。ノタノホリまでにかなり時間を要した。ノタノホリに到着して残り時間が読めるようになり一安心。予定より 20 分遅れでイン谷口に到着。いくらか遅れて北小松組が到着し、同じバスで帰田辺。

ワングル道の急登、堂満岳からの急坂のかなりきついコースでした。初めての CL で全員無事故なく終了し、皆様のご協力に感謝いたします。

ヒヤリハット ありません

久しぶりの感想文。今回は感じるところが沢山あった。順番に紹介させていただきます。

1. 今回の山行について

大津ワングル道の入り口はイン谷口の駐車場の一角にある。取りつきはすり切れたビニールテープがぶら下がっているだけ。5月18日にほぼ同じコースを歩いた。このときは6ヶ月超振りの山行であった。が結果としてみなさんにご迷惑をかけずにすんだ。今回は釈迦岳の分少し大回りであることと登りが少し危険な大津ワングル道に行くが総合的にみてたいしたことはないと思っていた。ところが実際に歩いてみると北比良峠から金糞峠、堂満岳までのアップダウンで体力を使い、堂満岳の長い下りでフラフラになった。緩んだ坂道で2度も滑った。今思えば若い方の前を歩いてもっとリードすべきであったと反省。ただ大津ワングル道の岩登りで六甲の岩梯子を覚えていてくれたのはうれしかった。全員無事イン谷口に戻ったときはほっとした。全行程先頭で引っ張っていただいたSLの岡本さんご苦労様でした。

2. 世代交代

入会5年未満の会員の参加が約半数。CLは2009年入会の広瀬さん、SLは2011年入会の岡本さん。着実に世代交代している。一方でベテランもしっかり頑張っておられる。

3. 浦島太郎

長いブランクで山にいくと「ここはどこ?」、「お前は誰や?」の感覚を感じる。少しずつ山行を増やし、浦島太郎からの脱却を図らねばならない。感想文のご指名も案外、「しっかりしろ」との激励の趣旨なのかも。ありがたいことです。

4. 足指のたこ

右足指が山行中痛かった。帰って指を広げてみると中指の人差し指が当たる部位にたこができていた。足指間にたこができることなぞ生まれて初めての経験。思いつく原因は堂満岳の長い下り、幅の狭い登山靴、普段踵がすり減ったランニングシューズを愛用。まず清潔、それからワセリンや穴あきパッドが有効とのこと。

5. 山は汗をかくために登る

は加藤文太郎さんが小説「孤高の人」で語った言葉。それとほぼ同じ言葉を京田辺走ろう会のある方から聞いた、「楽しんで走るのなら走らない方がええ」。今回の山行はそうしたことを思い出させてくれた。写真説明：北比良峠から見た琵琶湖、堂満岳山頂の集合写真

